

理想の学校を目指して



生徒会顧問

森岡 佳奈子

今年度の生徒会活動は、活気・協力・委員会活動の活性化の三つに重点を置き、活動を組織してきました。よりよい学校を目指すために活気と協力は欠かせないと考え、委員会活動の活性化を図ることで達成できると考えました。このことを踏まえて、リーダー研修会での意見をもとに、今年度の目指す学校像を「生徒全員が協同で創る、充実した生活を送れる学校」に決めました。そして、目指す学校像に迫るために、三つの活動を行いました。

一つ目は、「おはよう東新」です。あいさつ運動は常任委員会の日常活動に位置付けられていますが、応援委員会と協力することであいさつの大切さをより伝えられると考えました。応援委員会は模範となる爽やかなあいさつを、常任委員会はいいさつを返してくれた人の人数の集計と、役割分担をしました。また、学期の初めに行くことで、よい新学期のスタートを切れるのではないかと考えました。あいさつ運動をしていく中で、だんだんあいさつがよくなってきているという手ごたえを感じています。あいさつが東新中のよき伝統として引き継がれることを、これからも期待しています。

二つ目は、「意見箱設置中」です。生徒会活動への要望や意見を述べる場合は、生徒総会しかありません。そこで、期間限定で意見箱を置き、より気軽に生徒会活動への要望を伝えられるようにしました。生徒総会ではあまり意見が出ない、学年での生活の課題や、ささいな疑問・要望を知ることができました。

三つ目は、「委員会同士の連携のコーディネート」です。常任委員会が委員会同士で協力する活動を組織し、多くの委員の力を借りて学校生活の課題解決に取り組みました。ベル着を徹底し学習への意識を高める活動は、学習・風紀・応援委員会と協力して行ってもらいました。また、爽増キャンペーンでは、保健・給食・体育・常任委員会で協力し、風邪予防や健康への意識を高めてもらう活動をそれぞれ行いました。委員会同士連携することは、簡単なようで難しいことでした。実現できたのは、各委員長との活動への理解と、見通しをもち時間をかけて企画を考えた常任委員のがんばりによるものだと思います。

これら三つの活動を今年度重点的に行ってきましたが、新しいことにチャレンジするだけではなく、伝統を引き継ぐという点も意識して行いました。例えば、昨年度復活した生徒会歌を生徒朝会で歌い継いだり、東風祭の軍団抽選会は生徒が楽しみにしている企画なので、時間をかけて取り組んだりしました。

このように、目指す学校像に向けて様々な活動をしてきましたが、困難も多々ありました。特に、爽増キャンペーンの「からだウィーク」では、見通しをもち、十分準備をして臨んだものの、当日課題が多く見つかりました。しかし、全員で問題点と解決策を話し合い、修正し、その素晴らしいチームワークで翌日にはスムーズに活動を運営することができました。このとき私は、これまで培ってきた「自治の力」が発揮されているとともに、その姿が学校の重点目標である「自分で考え行動する」、「認め合い支え合い高め合おう」という姿そのものだったように思います。

最後に、「チーム常任委員会」のみなさん、本当に学校のため、生徒のためにがんばりました！みなさんが学んだことは、かけがえのない財産となり、今後の人生を豊かにしてくれるはず。次のステージも「晴都」となりますように。